

2024・2025年度
町田市教育委員会研究指定校

研究主題

主体的に学び続ける 生徒の育成 ～自己肯定感を高める指導の工夫～

あいさつ

工藤 憲治

2024年3月に「町田市教育プラン24-28」が策定され、その中で教育目標が「自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来」と示されました。生涯を通して自ら学び続けていくためには、学校教育で「学び続ける力」の土台を培うことが求められます。

本校は、2024・2025年度町田市教育委員会研究指定校として、「学び続ける力」の向上を目指し、「主体的に学び続ける生徒の育成～自己肯定感を高める指導の工夫～」を研究主題に研究を推進しているところです。学校教育で培われる「学び続ける力」の要素には、ポジティブ・自己理解・協調性などがあります。自分の特性を知り学習の理解度に応じた学び方を選択できる「個別最適な学び」、ICTを活用し対話やグループ学習を取り入れた「協働的な学び」、それらの充実には「自尊感情」を高めることが土台となると捉えました。その1年目として、生徒の「人のよさを認める力」「協力しようとする力」を伸ばし、「学び続ける力」の向上への第一歩をようやく踏み出したところです。

今年度の取組の成果を、今後の教育活動に活かすと共に2年次の研究へとつなげてまいります。本校の研究を進めるにあたり、ご指導・ご助言いただきました講師の方々をはじめ、町田市教育委員会、関係諸機関の皆様には心より感謝申し上げます。



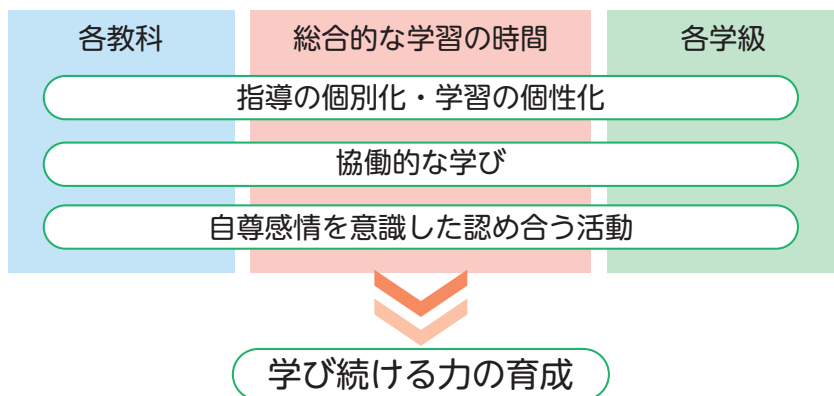
町田市立堺中学校

現状と課題

本校は創立78年を迎える、地域に支えられ共に歩んできた学校である。落ち着いた地域で育ってきたこともあり、生徒は穏やかでのびのびと学校生活を送っているが、学習に対してまじめに取り組むものの積極性や主体性に欠ける面がみられ、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査の「1、2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目結果でも、全国及び都の平均より10%以上下回っている。また、不登校生徒も増加傾向(R5年度：8%)にあり、自己肯定感や自己有用感を高めていくことも課題である。

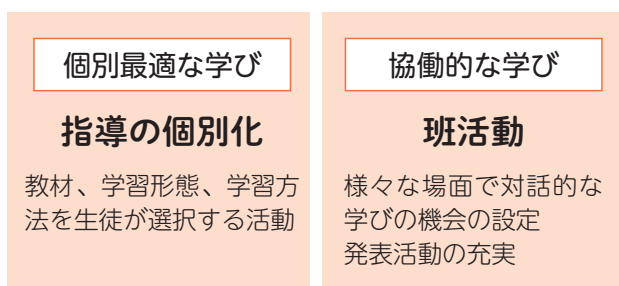
目指す生徒像

主体的に学びに向かい「学び続ける力」を培った生徒



仮説

「個別最適な学び」「協働的な学び」「自尊感情を意識した認め合う活動」を各教科・総合的な学習の時間・各学級活動等で進めることで、「生徒の学び続ける力」の育成につながるのではないだろうか。

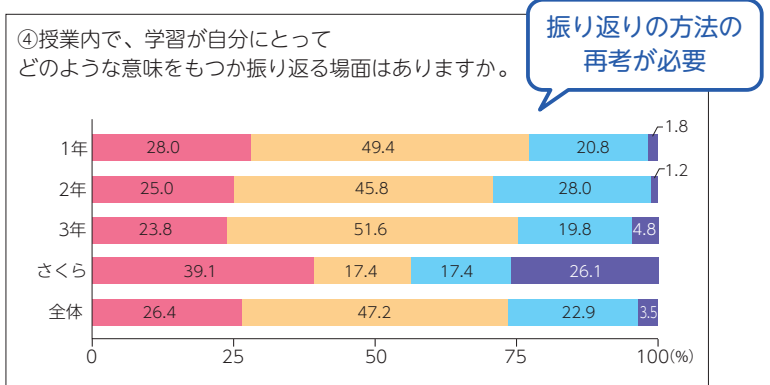
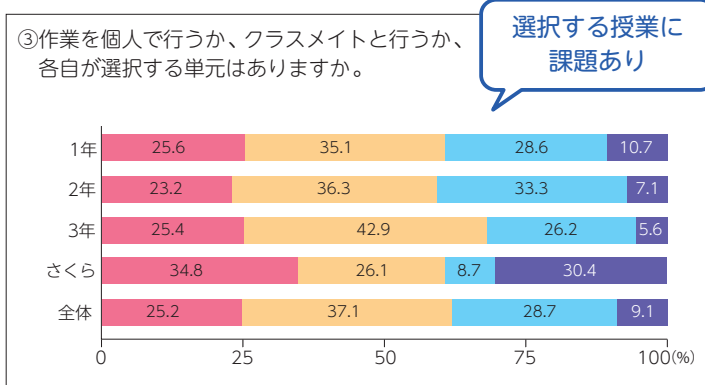
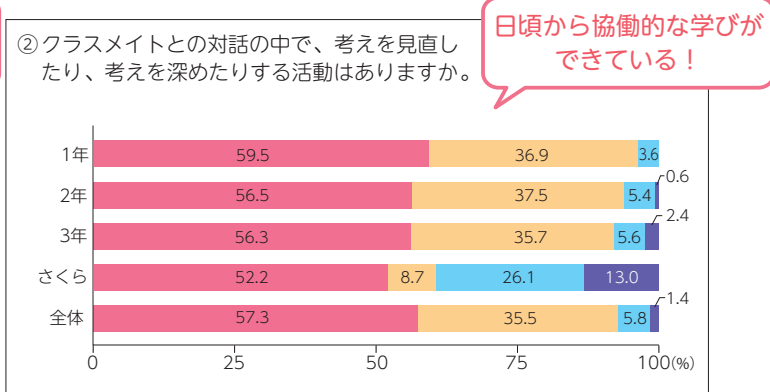
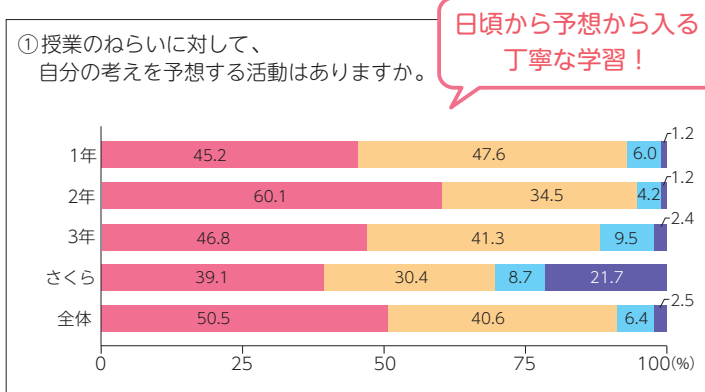


自尊感情測定尺度(東京都版)の活用



〈2024年6月 生徒アンケート結果〉

あてはまる・とてもある (赤) どちらかというあてはまる・どちらかといえばある (黄) どちらかというあてはまらない・どちらかといえばない (青) あてはまらない・まったくない (紫)



2024年度の取組

日時 2024年5月22日(水) 14時45分～15時40分
講演 「自己肯定感・自尊感情をはぐくむ教育について」
講師 明星大学教育学部教育学科 客員教授 樋口豊隆先生

本校生徒に4月に実施した「生徒用自己評価シート」の分析をしていただいた。堺中の生徒は、自己有用感が高いという結果があり、学校が楽しい、将来人の役に立ちたい、地域社会をよくしたい生徒が多い。

【研究の提案】

- ①4人組での学習実施(対話的な学びを日常で経験し、学習の中で自己有用感を高め、自信をもつ。学習への興味関心を高め、自己学習・深い学びにつなげる。)
- ②地域との意見交換を通じての自尊感情の向上(自分たちが学校をどう作っていくかを考えさせる。)

日時 2024年7月12日(金) 14時45分～15時40分
講演 「個別最適な学び・協働的な学びについて」
講師 玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授 仙北屋正樹先生

「個別最適な学び」「協働的な学び」「探求的な学び」との関係

指導の個別化

- ・個別指導、少人数指導
- ・グループ学習、ワークシートの工夫
- ・補修教室、放課後学習教室
- ・ICTを活用した指導

学習の個性化

- ・異なる目標(自分で目標を設定)
- ・自分の興味あることを調べる
→探求学習の実践、地域人材の活用
→多様な教科を総合した探求学習

総合的な学習の時間の活用

日時 2024年 2学期以降 教員同士の相互授業観察

夏休みに指導案の略案を作成し、「指導の個別化」に焦点を当てて授業観察をした。

- 成果**
- ・ICTを生徒たちのクラウドとして活用したり、まとめ活動の中で活用したりできていた。
 - ・生徒たちの興味関心に沿って教材やグループを選択でき、生徒の学ぶ意欲が高まっていた。
- 課題**
- ・個別にする分、生徒同士の対話が薄れてしまっていることがあった。
 - ・学習に援助が必要な生徒は個別の学習になる前の段階から手だてが必要である。

日時 2024年10月9日(水) 14時50分～15時45分
講演 「Qubenaの効果的な活用について」
講師 株式会社コンパス Qubena担当の方

●個別最適な学びのサポート機能について

- ・一人一人のつまずきに合わせてAIが最適な問題を出題
- ・一人一人のタイミングに合わせてAIが復習問題を提案

●主体的な学び「自己調整」「自己決定」

- ・問題を自分で選ぶ→結果を見て自分に合った問題を選択する
- ・学習履歴から間違えた問題を解き直ししやすいシステムになっている
- ・メニュー構成が主体的な学びにつながるようになっている(学ぶ振り返る復習するサイクルがしやすい)



日時 2024年10月16日(水) 14時45分～15時40分
研究授業(「指導の個別化」を意識した授業)
講師 玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授 仙北屋正樹先生

第1学年 国語科 言葉に立ち止まる「詩の世界」
授業者：田中美帆教諭

【指導の個別化】

それぞれが好きな詩を選択し、共通した人とグループを組み、考察する。表現技法を確認し、自分の詩を作成する。



- 成果**
- ・多様なグループ設定
 - ・生徒の興味関心に応じた学習課題
- 課題**
- ・ワークシートや振り返りシートの工夫
 - ・授業のねらいの明確化

第2学年 保健体育科 陸上競技(ハードル走)
授業者：小越直教諭

【指導の個別化】

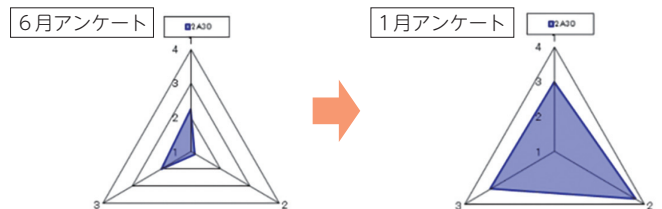
それぞれが個別の目標を設定し、自分で練習メニューを考える。ICTを活用し、モニターで自分のフォームを確認する。



- 成果**
- ・効果的なICTの活用
 - ・単元を通した振り返りシートの活用で見通しをもてた
- 課題**
- ・教員がそれぞれの学習のねらいを可視化できない
 - ・指導における一斉と個別のメリハリ

日時 2025年2月12日(水) 14時45分～15時40分
講演 「自己肯定感・自尊感情をはぐくむ教育について 次年度研究発表会に向けて」
講師 明星大学教育学部教育学科 客員教授 樋口豊隆先生

- 4、5校時の授業を参観し、講演をしていただいた。生徒が能動的であり、先生の話聞く姿勢、学ぼうとする意欲が高い。
- 「生徒用自己評価シート」の分析結果(堺中学校の生徒で大きな変化が見られた一例)



全体的に数値が低く、特に「関係の中での自己(自分が周りの役に立っているか? 他者の存在の大きさに気付いているか?)」の項目の数値が低い

大きく数値があがった。委員会に所属する中で、自己の役割を果たし、周囲に貢献する姿勢がみられた。定期考査に向けた学習の取組も向上し、各教科の点数も伸ばしている。

【樋口先生から次年度研究発表に向けた提案】

- ・指導案に自尊感情向上の留意点を示す。
- ・導入、展開、まとめの指導案をやめ、堺スタンダードの指導案にシフトする。
- ・4人グループ活動(対話的学び)
- ・「授業とは何なのか」生徒会や学級委員会に投げかけ考えさせる。生徒主体となるための話し合いをさせる。

成果と課題

成果

- 従来の知識注入型の授業を脱却し、生徒が主体となって活動していく中で「深い学び」が実現できる授業を計画できるようになった。その中で一つの授業を工夫するのではなく、単元全体を通して「生徒が自ら進んで学ぶ」ための計画を立てられるようになった。
- 単元の中では、生徒に選択させる場面を増やすことができるようになった。教員から「授業のねらい」を提示するのではなく、「単元のねらい」を提示した上で、生徒一人一人がその為にどのような活動を取り入れればよいかを「選択」する授業を行うことができた。

課題

- 生徒に「選択」させる場面が増えていく中で、個人差をどのように補うかが課題となっている。生徒一人一人は単元のスタートラインに立った時点で「個人差」がある。その中で教員が全員に適切な方向性を提示できるかが課題である。
- ICTを効果的に活用するために課題がある。特に「個別最適な学び」ができる環境を構築するうえで、一人1台端末の利用は欠かせない。しかし、まだ紙媒体を用いる場面が多く、場面に応じてICTを活用できるように教員の授業形態を変化させていく必要がある。
- 従来の授業スタイルからの脱却(一斉授業から個別最適・協働的な学びへ)の中で、生徒のより良い学びの実現のための授業改善になっているかを立ち止まって確認する必要がある。毎時のねらいの設定、振り返りの量の多さなど生徒の負担感が増え、学習意欲が失われてしまう場合もあり、生徒との振り返りの時間を大切にしたい。

ご指導いただいた先生方

明星大学教育学部教育学科 客員教授

樋口 豊隆 先生

玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授

仙北屋 正樹 先生

教職員

校長	経営	工藤 憲治
副校長	経営	島田 健一
第1学年	1A担任	社会 鶴田 健介
	1B担任	国語 田中 美帆
	1C担任	理科 齋藤 龍馬
	1D担任	理科 遠藤 侑
	1E担任	保体 星野 敦司
	1F担任	美術 本間 豊
	1F担任	美術 井上 秀史
	1AD副担任	国語 加藤はるか
	1BF副担任	数学 比嘉佐由理
	1CE副担任	英語 蔭山 忠海
第2学年	2A担任	英語 小林 秀子
	2B担任	社会 細谷 雄太
	2C担任	理科 橋本 洵
	2D担任	国語 平山 孝之
	2E担任	保体 小越 直
	2F担任	数学 森元 公彦
	2AC副担任	技術 大塚 則岳
	2BD副担任	英語 峯 和佳子
	2EF副担任	音楽 村上真梨子
第3学年	3A担任	理科 長門 輝一
	3B担任	社会 笹谷 寛行
	3C担任	家庭 木野戸友香
	3D担任	英語 小関 淳子
	3E担任	数学 中村 広也
	3A副担任	保体 金井 愛里
	3BE副担任	数学 高橋麻也子
	3CD副担任	国語 古屋 茂樹

さくら学級	1年	特・英語	青木千亜希
	1年	特・保体	藤井 真
	2年	特・理科	満崎 佳
	2年	特・保体	宮川 智也
	3年	特・保体	大澤 勝
	3年	特・英語	岡田真太郎
養護教諭	1年	養護	牧瀬恵美子
特別支援教室専門員			関谷 奈美
事務			目黒純巳子
事務			岡田 洋
用務			古谷 健二
用務			岡田 一也
用務			大橋 渉
特別支援教育支援員			高德 宥介
特別支援教育支援員			佐藤 郁子
副校長補佐			村尾 昌昭
スクールサポートスタッフ			前田 陽子
スクールカウンセラー(都)			東海林則子
スクールカウンセラー(市)			和田 卓

町田市立堺中学校

〒194-0211 東京都町田市相原町7-5-2

電話：042-771-2348

ファクシミリ：042-772-4218

ホームページ：<https://machida.schoolweb.ne.jp/1320110>

